

在セネガル日本国大使館月報

2022年3月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 13日、セネガル政府軍は、カザマンズ地方のガンビア国境地帯において、セネガル反政府勢力カザマンズ民主勢力運動(MFDC)の基地に対する掃討作戦を実施した。(14日 APS 他)

(外政)

- 21-26日、セネガルで第9回世界水フォーラムが開催され、21日の開会式ではサル大統領のほかフォション世界水会議代表やビデオメッセージの形式で参加した日本の天皇陛下、各国首脳等が代表挨拶を行い、アフリカや世界の水問題につき議論が行われた。(22-27日 各紙)
- 24日、ウクライナでの人道危機を受け、国連総会においてセネガルを含む140か国の賛成で露に戦闘を停止するよう要求する決議が採択された。これに先立つ2日、非同盟主義等を掲げるセネガルは、露によるウクライナ侵攻を批難する国連総会決議への投票を棄権していた。(25日 APS)

(社会・スポーツ)

- サッカー2022年W杯予選では、セネガルーエジプト戦が25日にエジプト、29日に新設されたセネガル・スタジアムで行われ、セネガルがエジプトに勝利し、W杯進出を決めた。(30日 Walf Quotidien 他)

ガーボベルデ

- 13-16日、ローレンソ・アンゴラ大統領が同国外相及び運輸・航空相とともにカーボベルデのプライアとミンデロを訪問。アンゴラ航空相は、航空協定の発効を発表し、同協定に基づきボーイング737-700が数日以内にカーボベルデに到着することを発表。(12-16日 Inforpress 紙)

ガンビア

- 10日、日本とバッチ診療検査室婦人科臨床サービスは、草の根人間の安全保障無償資金協力プロジェクトの署名式を行った。本プロジェクトにより、集中治療に必要な医療機材(総額76,995ユーロ)が供与される。(17日 The Point)

ギニアビサウ

- 18日、翌日に党会合を予定していたギニアビサウ最大野党のPAIGCの本部に警察が介入し、党関係者に対して催涙弾を発射し、複数名が負傷した。(19日 DW)

- ・文中の「コロナ」とは特別な記載がない限り、「新型コロナウイルス」のことを指すこととする。
- ・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 13日、セネガル政府軍は、カザマンズ地方のガンビア国境地帯において、セネガル反政府勢力カザマンズ民主勢力運動(MFDC)の基地に対する掃討作戦を実施した。(14日 APS 他)

(外政)

- 3日、在セネガル・ウクライナ大使館がFacebookでウクライナ軍とともに戦う外国人兵士を募集していたところ、同日、セネガル外務省がウクライナ大使を召喚して嚴重な抗議を行い、当該記事を即時に削除するよう要請するコミュニケを発出した。(3日 セネガル外務・在外自国民省声明)
- タル外相は10日からトルコを訪問し、アンタルヤ外交フォーラム(11~13日)に出席したほか、14日にはトルコ外相とセネガル・トルコ合同委員会を開催した。(14日 セネガル外務・在外自国民省 SNS)
- 21-26日、セネガルで第9回世界水フォーラムが開催され、21日の開会式ではサル大統領のほかファッション世界水会議代表やビデオメッセージの形式で参加した日本の天皇陛下、各国首脳等が代表挨拶を行い、アフリカや世界の水問題につき議論が行われた。(22-27日 各紙)
- 24日、ウクライナでの人道危機を受け、国連総会においてセネガルを含む140か国の賛成で露に戦闘を停止するよう要求する決議が採択された。これに先立つ2日、非同盟主義等を掲げるセネガルは、露によるウクライナ侵攻を批難する国連総会決議への投票を棄権していた。(25日 APS)
- 25日、サル大統領はアクラでマリ、ギニア、ブルキナ情勢に関するECOWAS臨時首脳会合に出席した。(25日 サル大統領 SNS)
- 31日、露連邦タタールスタン首長のセネガル訪問に合わせ、ダカールで露とセネガルのビジネス関係者による円卓会議、大統領官邸での昼食会が催された。(31日 Walf Quotidien)

二国間関連

- 16日付の声明で、USAIDは、セネガルにおけるワクチン接種の技術支援・啓発・ワクチンへのアクセス改善のため新たに1500万米ドルの支援を発表しつつ、15日時点でセネガルでは1回目の接種率は国民の10%、2回目は6%に過ぎないと指摘した。(17日 Le Soleil)
- 26日、サル大統領は、ファティック州で中国の有償資金協力により建設したフォンジューニュ橋の完工式に出席し、同橋をネルソン・マンデラ橋と命名した。(28日 Le Soleil)

国際情勢・国連機関支援等

- IMFが9~15日のセネガルでの現地調査を踏まえ報告書を発出し、2021年の同国の経済成長は期待以上だが、ウクライナ情勢の影響で世界的な食料品・エネルギーの価格が高騰し、経済成長減速・インフレ圧力の高まり・公的支出の増加に繋がる可能性があると分析。(19-20日 L'Observateur)

日本関連

- 14日、セネガル空手連盟は、日本国大使館からの支援を受け、レオポール・セダール・サンゴール・スタジアム敷地内に設置される空手道場建設契約の署名式を実施した。(17日 Le Soleil)
- 17日、伊澤駐セネガル日本大使は天皇誕生日祝賀式典を開催し、セネガル政府代表のシイ労働大臣らが参加した。この機会に、ンブール県の農村での循環型経済の促進等を目指し、NPO法人「ムラのミライ」とNGO連携無償資金協力の贈与契約署名式が行われた。(19日 Le Soleil)
- 24日、駐セネガル日本大使公邸にて、第34回俳句コンクール授賞式が行われ、ラマトウライ・ガイ氏が最優秀賞を受賞した。(26-27日 Le Soleil, Walf Quotidien 他)
- 26-27日、TICAD閣僚会合がオンラインで開催され、コロナ禍・ウクライナ危機後のアフリカの発展等につき議論された。この機会に日セネガル外相会談も行われ、二国間関係の一層の強化で一致。タル外相は、ウクライナ情勢に関連し国際法・国家主権・人権の重視を強調した。(29日 Le Soleil 他)

(経済)

- BP社、Kosmos energy社とセネガル石油公社は、セネガル沖のテランガ・ヤカール石油開発フェーズ1の最終投資決定を2022年末までに行い、2024年までに生産開始することを発表した。(12日付 Le Quotidien 紙)
- 29日、保健・社会活動省は、セネガルに渡航する全ての者に対し、規定接種回数を了したワクチン接種証明書又は72時間以内のRT-PCR検査の陰性証明書の提示を求めるとともに、入国時における感染症対策の監視を強化する旨発表した。(29日 保健・社会活動省回章)

(社会・スポーツ)

- サッカー2022年W杯予選では、セネガルーエジプト戦が25日にエジプト、29日に新設されたセネガル・スタジアムで行われ、セネガルがエジプトに勝利し、W杯進出を決めた。(30日 Walf Quotidien 他)

カーボベルデ

- 13-16日、ローレンソ・アンゴラ大統領が同国外相及び運輸・航空相とともにカーボベルデのプライアとミンデロを訪問。アンゴラ航空相は、航空協定の発効を発表し、同協定に基づきボーイング737-700が数日以内にカーボベルデに到着することを発表。(12-16日 Inforpress 紙)
- 28-30日、サントメ・プリンシペのジェズース首相がカーボベルデを訪問。外交、コミュニティ、教育、観光、農業、新しい技術、デジタル経済面での協力に関わる二国間及び複数国間協力の協定に署名した。29日にはサル島を訪問し、両国の観光分野の協力を確認した。(28-30日、Inforpress 紙)

ガンビア

- 10日、日本とバッチ診療検査室婦人科臨床サービスは、草の根人間の安全保障無償資金協力プロジェクトの署名式を行った。本プロジェクトにより、集中治療に必要な医療機材(総額76,995ユーロ)が供与される。(17日 The Point)

ギニアビサウ

- 7日、エンバロ大統領はバルボザ外相と共にルワンダを公式訪問し、バルボザ外相とビルタ・ルワンダ外相が観光、貿易・投資、教育の3分野で協定に署名した。(7日 エンバロ大統領 SNS)
- 18日、翌日に党会合を予定していたギニアビサウ最大野党の PAIGC の本部に警察が介入し、党関係者に対して催涙弾を発射し、複数名が負傷した。(19日 DW)
- 23日、EUは、2021-2027年のギニアビサウ開発計画を開始した。同計画は、人間開発、グリーンで包摂的な経済、良いガバナンスと安定を3本柱としている。(23日 O Democrata)

(注) 本報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)